『この100倍も痛いんだよ』

いじめられている息子と向き合って

今中学1年生の長男は幼いころから私に厳しくしつけられて、反抗することを許されない環境で育ちました。息子は幼いころに「やりかえすな」と私にきつく言われたため、やりかえすことができなくなったと言います。

幼稚園時代は、穏やかなお友達に囲まれ、幼稚園生活も、園後のお友達との遊びも楽しく過ごしましたが、小学校に入って、気の強い子供達にいじめられるようになりました。俺がいじめられるのはお母さんのせいだと息子は言います。私は祖母から子供はたたいて育てるものと言われていたので、幼いころに押さえつけて叩いて育てました。もともとの気質に加えもっと気の弱い子になってしまったのだと彼は言います。私もそのように思い、今は厳しくしつけたことを悔いています。しかし、過去はもう変えられません。

1、2年生から気の弱い優しい長男はいじわるを言われたりすることが多くなりました。しかし、その頃の私は息子に弱気だとやられると思いやなことは嫌だと言うように叱咤激励していました。しかしそれは無理なことでした。

長男が3年生くらいのときに、夫婦間で関係がもつれた時期がありました。離婚も考え、家族がばらばらになることに直面して初めて、息子がどんなに大切な存在か気がつきました。私のもとに生まれてきてくれたまだ幼い息子二人が自分の足で歩けるようになるまでサポートすることが、今の私がしたいことだと気がつきました。当たり前にいるように感じた息子二人が無条件に私を求めて必要としてくれていることで、自分の存在意義を感じられるのだとわかり息子の存在に感謝しました。

ちょうどその頃、傾聴との出会いもありました。それまで子供を叱って責めて追い詰めてという関わりが、親の役目は子供の生活する流れを作ってあげることだと学び、子供に怒ることが少なくなりました。そして、子供のすることには、必ず理由があるということに気づき、子供の行為に対し、今までの怒る、叱るということから、行為の理由を親子で探すという作業に変わりました。

長男が5年生の秋ごろ、中学受験を考え親子で必死になっていましたが「勉強が辛くてもう死にたい」という言葉に、長男には、まだ受験は早いと感じ、受験をやめました。やめると決めた日から、息子は親に捨てられるのではないかという不安で、親と一緒に寝るようになりました。

長男が5年生のクラスでは、担任が指導力のある先生だったこともあり、クラス全員が仲良く生活し、お友達に囲まれて楽しい日々が送れました。

しかし、6年生になるときにクラス替えがあり、長男をからかって楽しむような子供が集まるクラスになってしまい、気の置けない友人はいない状態になりました。長男は学校を休みたいと何度も言いました。

私は休むくらいなら、新聞配達などの仕事をすればよいと言いました。これは、長男を責めたのではなく、学校以外でも生きていけるからとにかく生きていればいいからという意味で言ったのですが、長男は我慢して学校に行きました。

その頃、下校中に毎日同級生に首を絞められるということがありました。

私は考えた末、相手の親に直接話すことはやめ、学校へのはたらきかけのみをしました。担任と面談し、担任から相手の親に事実を伝えてもらいました。結果、下校中に首を絞められることはなくなりましたが、卒業までの間何かしら陰湿なからかいは続きました。

長男は中学校に入り、運動部に入りました。その部活でも、長男を下に見ている同級生に、「かっこつけている」「調子にのっている」という言葉や、進路を妨害する、押さえつける等、ちょっとやってみたかったというような自分のストレス発散のためのいじめ行動に、長男はとても苦痛を感じていました。そして反抗しないで、やられっぱなしの長男は、クラスの一番下になりました。

夏休みの宿題の論文で、親子でいじめについて考えました。いじめる側には、いじめられる側の痛みに対し、共感する能力がなくなっており、快感すら感じる脳の神経回路になっているということ。いじめている子本人の問題でいじめることが多く、相手が原因でいじめているわけではないこと。報道に寄るといじめるいじめられるに関わる生徒は全校生徒の9割であること。などを親子で話し合いました。息子にはどんなことがあっても絶対死んではならないと言っています。世の中には息子をわかってくれる人が必ずいる。日本のどこかに世界のどこかに、息子が暮らしていける場所があるから、と。論文の中で、「親にいつでも引っ越していいよと言われると心が軽くなります」と長男は書きました。

先日どのように殴られるのかやってみてと言うと、「この100倍は痛いよ」と言いながら私をけったりなぐったりしました。私は涙が出ました。大変辛いものでした。昨日も名札の留め具を壊されて帰宅しました。

でも、過酷な夏休みの部活を終え、息子は少したくましくなりました。運動部で体を鍛えて、心も鍛えた長男は、小学生の時ほど悲劇的に私に訴えることは少なくなりました。いじめられていることも平然と話すようになりました。でも時々転校したいな、と言っています。

私が長男を思って行動すること、人生にチャレンジすることが、長男が今後の人生を生きていく上で、彼のためになると祈りながら手探りで長男を支えています。

（匿名希望）